

Dive Inフェスティバル2024開催

「持続可能な社会の実現」テーマにセッションと特別講演



ファーガソン氏



安藤氏

ロイズ・ジャパン、AIGジャパン・ホールディングス、エーオン、Chubb損保、マーシュジャパン、マーシュプロローカージャパンが参画する「日本におけるDive Inフェスティバル運営委員会」は、世界同時開催時期に合わせて「Dive Inフェスティバル2024」を9月25日、26日の2日間にわたり、東京都千代田区の紀尾井カンファレンスの会場とオンライン配信のハイブリッド型で開催した。今年の特徴的なテーマ「A Sustainable Future: The Next 10Years: 持続可能な社会の実現に向けて一次の10年への課題」の下、AI、ウェルビーイング、介護などに焦点を当てた三つのテーマのセッションと二つの特別講演が行われた。フェスティバルには1372人が登録し、セッション・講演に合計893人(各イベントの参加者の延べ人数)が参加した。

「Dive Inフェスティバル」はダイバーシティとインクルージョンをテーマとする保険業界唯一の国際的な催しで、小規模の保険プロカー(仲立人)から大手多国籍保険グループに至るまで、保険業界のさまざまな組織が一致団結し、毎年9月に世界各地で開催している。日本での24年のイベントパートナー会社には、AIGジャパン・ホールディングス、リアンツ火災、エーオン、Chubb損保、ギヤラカリージャパン、HDI Global Insurance Japan支店、Howden Group Japan Holdings、ロイズ・ジャパン、マーシュジャパン、マーシュプロローカージャパン、ミュンヘン再保険日本支店、PWC Japan

panグループ、RGAリインシュアランスカンパニー日本支店、スイス・リー、TBWA、HAKUODO、東京海上日動、WTW、チュリッヒ保険が参画しているほか、一般財団法人国際協力推進協会、上智大学がイベント協力を行っている。

DAY 1

日本におけるDive Inフェスティバルは、運営委員会委員長のロイズ・ジャパン代表取締役社長のイアン・ファーンソン氏によるオープニングスピーチで幕を開けた。同氏は「Dive Inフェスティバルは、diversity, equality, inclusionの原則に基づいて毎年開かれる保険マーケットフェスティバルで、2015年にロンドンで初めて開催された。今年



セッションではAIの活用で議論



セッションのパネルディスカッションの様子

安藤優子氏が「多様性と共生の未来」で講演

子氏が「多様性と共生の未来」と題して特別講演を行った。安藤氏は「40年以上前、当時完全な男性社会だったジャーナリストの世界に足を踏み入れ、初めての取材で金丸幹事長(当時)のコメントを取ったにもかかわらず、『女性だからできない』と言われる悔しい思い」と言われ悔しい思い

経験について語った。安藤氏は、1994年のアパルトヘイト廃止後の南アフリカで、初めて白人専用の学校に行ったにもかかわらずさまざまな排除に遭い1週間で退学をした女子生徒に、肌の色について質問したところ、「ただ違うだけ」という答えを聞き、問題

DAY 2

「話したいことはもっとたくさんある」とする中、講演は終了し、会場は次回を期待する多くの拍手に包まれた。

行った。モデレーターは沖山愛氏、パネリストは千田理緒氏、伊藤有美子氏、高橋勲氏が務めた。はじめに、日本におけるダイバーシティ・エ

で10年目を迎え、日本では7年目となるが、これまでの成果を非常に誇りに思い、10周年を迎え、今こそ未来について考えたい」とあいさつした。

をした。その後、『女性だから』と言わせないようう心に決め、ほぼ毎日取材に奔走したが、停戦前のカンボジアで女性である自分の体には重過ぎる男性用の装備を身に付けて取材をしたため、危険な目に遭遇した「ことなど、男女の公平と平等の

は「違い」ではなく違いに対する「心の壁」であることに気付いたという。講演の後半では、会場内およびウェブ視聴者からの多くの質問にも回答し、「もっと政治分野での女性の参加が必要」などとコメント。安藤氏

2日目最初のセッション「AIとつくる10年後の未来とは?」AIは我々の脅威かチャンスか?」では、起業家、エンジェル投資家として知られる成田修造氏が、幅広い経歴と年代で構成されたAIG損保の社員とパ

ネルディスカッションをIをはじめとするテクノロジーの発展がもたらす多様性への期待を共有した。最後に、AIによって保険業界が変革することで、より良い社会へとつながる可能性について言及し、そのためには将来へのビジョンとAI活用の旗振り役、そしてまず

セッションの後半で(11面へつづく)

